

多摩キャンパスツアー

日時 2022年4月11日(月) 11:10~12:50

場所 多摩キャンパス

概要

- 参加者数：2名
- 講師：多摩KYOPRO学生スタッフ
- 実施目的：
 - 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
 - 多摩キャンパスの学生に多摩キャンパスの魅力を知ってもらう
- 内容：

2022年4月11日(木)に課外教養プログラム「多摩キャンパスツアー」を多摩キャンパスにて開催いたしました。本プログラムでは、多摩キャンパスの新入生、また新型コロナウイルスの影響であまり多摩キャンパスに通えていなかった学生に向けて、広大な多摩キャンパスの施設を紹介することを目的に開催されました。

プログラムは、KYOPRO学生スタッフが参加者に向けて多摩キャンパスを実際に歩きながら紹介する形式で行われました。各学部棟や図書館、総合棟など普段使う場面の多い施設の活用の仕方などを紹介したほか、EGG DOMEやテニスコートなど、実は学生が自由に使えるのにあまり知られていないような場所の紹介もしました。参加者には、KYOPRO学生スタッフが作成した「多摩キャンパスパンフレット」を配布し、それをもとに各施設の活用方法について紹介しました。パンフレットには多摩キャンパスの食事スポットや遊びスポット、コピー機やPCが使える場所など多摩キャンパスの様々な便利情報を記載したので、今後の学生生活の中でも役立つことと思います。

本プログラムは参加者が少数であったため、より参加者の知りたいことに沿った形で多摩キャンパスの紹介ができたと思います。参加者からは、特に多摩キャンパスに球技などで遊べる場所がかなり多いことについて知れて良かった、という声をいただきました。本プログラムをきっかけに普段の学生生活の中だけではなかなか気づきにくい多摩キャンパスの施設の活用方法を知ってもらえた、ということでも嬉しく思います。

ここで得た多摩キャンパスの知識がこれからの多摩キャンパスでの学生生活の中で役立つとすれば幸いです。

【報告・KYOPROスタッフ】佐藤珠実(社会学部社会学科3年)

新生
歓迎!!

参加者
募集中

定員/各10名
対象/本字学生
場所/多摩キャンパス

多摩キャンパスを
KYOPRO学生スタッフが
ご案内します!
大学設備の使い方を
いち早く知れます!

4月11日(月)
①11:10~12:50 (2限)
②15:30~17:10 (4限)
※両日程同一内容

申込はこちらから→
※大学のメールアドレスでログインしてください。

お問合せ / 多摩学生生活課 TEL. 042-783-2152

コミュニカアップ！春から始める雑談講座

日時 2022年6月1日(水) 17:10~18:50

場所 市ヶ谷キャンパス外濠校舎5階
523~526 短期会議室

概要

1. 参加者数：13名

2. 講師：

ひきたよしあき氏

(コラムニスト・コミュニケーションコンサルタント)

3. 実施目的：

- 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
- 就職活動の面談や初対面の学生とのコミュニケーションで不安を抱えないようになる

4. 内容：

6月1日(水)に法政大学・課外教養プログラム「コミュニカアップ！春から始める雑談力講座」を実施致しました。本プログラムでは大学、小中学校、企業、行政機関などで、コミュニケーションや話し方に関する講演を多数行い、人々の「言葉の力」を強くする活動を展開している、スピーチライター・コラムニストのひきたよしあき氏を講師にお招きしました。

コミュニケーションにおける工夫や雑談のコツに関する講義を受けた後に、実際に4~5人のグループでテーマを定めずディスカッションを行うという実践の場を多く設け、コミュニケーションへの苦手意識を無くす講座づくりを目指しました。

今回の企画を受講する事で参加学生が上手に会話を出来るようになる事を目的としました。まず、前半の講義では挨拶の重要性や簡単に実践できる雑談カトレーニング法を紹介して頂き、その後、話が途切れた際の対処法や相手の話を引き出す工夫について、お話して頂きました。講義内容はとても興味深く、参加学生はメモを取ったり、質問する等熱心に受講する姿が印象的でした。

後半は実践的なグループディスカッションを行いました。前半の講義でインプットしたコミュニケーションに関する知識を活かして、話し合いを行った事で講義中は少し緊張しているように見受けられた学生たちが楽しそうに会話をする様子が印象的でした。

また、ひきた氏から「雑談の合間に反応の声が上がっている点が素晴らしい」とコメントを頂き、雑談が楽しいと改めて感じる機会を作ることができてよかったと思いました。

このプログラムを通じて、学生には様々なコミュニケーションの工夫やスキルを学んで頂きました。今後、授業や就職活動において「自分は会話が苦手だ」という苦手意識を持たずに意識を変えるだけで会話がスムーズに出来るようになる事を実感して頂ければ幸いです。

学生センター・課外教養プログラム(法政大学後援会補助事業)

コミュニカアップ！
春から始める雑談力講座

会話のきっかけが見つからない…

雑談ってどうしたらいいんだろう…

6月1日(水)
17:10~18:50

場所：外濠校舎5階523~526短期会議室
対象：本学学部生/定員20名
参加費：無料

企画概要

皆さんは「友達との話題が見つからない」「雑談力が欲しい」といったことはありませんか？
本企画では、共通点の探し方や話の切り出し方などについて実際に学ぶことができ、皆さんの悩みを払拭することができ、是非、この企画に参加して友人関係を広げ、大学生活を充実させてみませんか。

講師

ひきたよしあき氏
(コラムニスト・コミュニケーションコンサルタント)
1984年早稲田大学法学部卒業後、簿記業に入社。CMプランナー、クリエイティブディレクターとして、数々のCMを手がける。政治、行政、次声企業などのスピーチライターとしても活動している。現任、大阪経済大学法政学部客員教授。数多くの大学、小中学校、企業、行政機関などで、「言葉の力」を強くする活動を展開。日本語の美しさ、コミュニケーションの重要性を様々な角度からアプローチし、広い世代に伝えている。また講義に「自分で言葉が『出ない』」「家とまらない」「話の切りかけがなくなる本」(大塚誠)など。

申し込み：各学生生活課
お問い合わせ：市ヶ谷学生生活課 TEL.03-3264-9475

【報告・KYOPRO スタッフ】川島祐奈 国際文化学部国際文化学科3年

プログラムの様子



世界遺産の価値を未来へ！ ～知られざる世界遺産のお話～

日時 2022年6月6日(月) 17:00～19:10

場所 市ヶ谷キャンパス外濠校舎5階523～526短期会議室

概要

- 参加者数：14名
- 講師：鈴木かの子氏（世界遺産アカデミー認定講師）
- 実施目的：
 - 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
 - なかなか知る事の無い世界遺産について学び、その価値や背景、社会問題について知る

4. 内容：

6月6日、法政大学課外教養プログラム「世界遺産の価値を未来へ！～知られざる世界遺産のお話～」を実施しました。

本企画は、学生が世界遺産の価値やその文化的な背景、世界遺産を取り巻く社会問題などについて学ぶ事を目的としています。講師には世界遺産アカデミー認定講師であり、関東の私立大学等で非常勤講師をされている鈴木かの子氏をお招きしました。鈴木氏は世界遺産検定マイスター資格をお持ちで、4年間の世界遺産を巡る旅をご夫婦でされていた経験があります。

本企画は対面形式で実施し、鈴木氏の講義を聞いた後、参加学生同士のグループディスカッションや参加学生と鈴木氏の間で質疑応答を行うという内容でした。

講義では世界遺産の基礎知識についてクイズを交えながらお話をしていただき、危機遺産についても詳しく取り上げていただきました。講義では実際に鈴木氏が訪れた事のある世界遺産の写真や動画を紹介しながら、説明を行って頂きました。内容はどれも興味深く、参加学生はクイズを楽しみながら世界遺産への理解を深めることができました。

また、グループディスカッションでは講義内容を踏まえ、「リヴァプールの都市開発についてどう考えるか？(賛成 or 反対)」をテーマに話し合い、全体で内容を共有した後、鈴木氏からもフィードバックをいただきました。各グループともに講義で学んだことを活かしつつ、最新のニュースも参考にしながら、一つの視点だけではなく多角的に問題を捉えて意見を出し合うことができ、とても実りのある時間であったと思います。

質疑応答の時間では、参加学生から世界遺産検定の勉強方法や鈴木氏の旅行の話までと幅広い質問があり、双方向のやり取りが積極的に行われていたので良かったと思います。

本企画をきっかけに、人類共通の財産とされる世界遺産の価値を理解し、危機遺産など世界遺産が抱える問題への関心を高めてもらうことで、その価値を未来へ伝えていく手助けとなれたのなら幸いです。

学生センター・課外教養プログラム(法政大学後援会補助事業)
世界遺産の価値を未来へ！
～知られざる世界遺産のお話～

世界遺産とは何かと聞かれたとき、みなさんはどのように答えますか？
世界遺産は過去から現在まで引き継がれた文化や自然を未来へと繋げていくものとして登録されています。世界中にある文化や自然が世界遺産に登録されるにはどのような背景、基準、価値があるのかを一緒に学んでみませんか？また、本来大切に保護されなくてはならない世界遺産が危機にさらされている状況もあります。世界遺産の現状を知り、世界遺産の未来について考えてみませんか？

講師 鈴木かの子氏
(世界遺産アカデミー認定講師(017-))
世界遺産検定マイスター資格保持者。関東学院大学・聖隷大学非常勤講師。
自家の企業で約10年間勤めた後、夫婦で4年間の世界遺産を巡る旅に出る。80か国500年以上の世界遺産を巡り、「世界遺産イシュー」というECサイトを開設(<http://whalicia.com/jp/>)、体験談等のブログ記事もあげており、2014年には著書も出版。最近ではフジテレビの「99人の壁」でのメディア出演もあり。

日時 6月6日(月)17:00～19:10
場所 外濠校舎523-526短期会議室
対象 本学学部生/定員25名
参加費 無料

お申込みはこちらから
※ログインの際に使用するメールアドレスは、ご自身の法政大学のメールアドレス (@stu.hosei.ac.jp) をご入力ください。

お申込み・各学生生活課
お問い合わせ：市ヶ谷学生生活課 TEL. 03.3264.9475

【報告・KYOPRO スタッフ】津嶋千早 法学部政治学科2年

プログラムの様子



能楽鑑賞教室

日時

事前学習 2022年6月8日(水) 17:30~18:30
 作品鑑賞 2022年6月22日(水) 14:00~16:00

場所

事前学習：市ヶ谷キャンパス 外濠校舎5階 和室
 鑑賞教室：国立能楽堂

概要

1. 参加者数：事前学習7名(うち、留学生1名)・鑑賞教室14名(うち、留学生2名)
2. 講師：能楽研究会5名
3. 実施目的：
 - 日本の伝統芸能である能楽を学び、実際に鑑賞する事で日本文化を理解する。
4. 内容：

6月22日(水)、学生センターの課外教養プログラム「能楽鑑賞教室」を実施しました。本企画では、能楽を観に行くだけでなく、本学の登録団体である能楽研究会が講師となった事前学習を経たうえで能楽を観に行きました。

6月8日の事前学習会では、能と狂言の違い、お囃子について、能面・能装束について、狂言について、能楽鑑賞のマナーを、実演を交えながら能楽研究会が解説し、鑑賞前に理解を深めました。

「竹生島」「田村」「熊野」「蝉丸」「鞍馬天狗」の5演目を実演していただき、興味深く鑑賞しました。参加者からは、「足拍子の意味」、「謡の方の扇の持ち方」、「ジャンプした後の姿勢が低いので膝は打たないのか？」など質問があり、終わったあとも話がつきませんでした。興味津々に質問を能楽研究会に投げかける参加学生の姿はとても印象的でした。

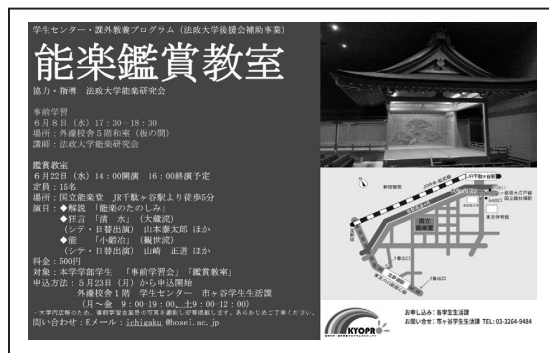
鑑賞教室当日は、参加者から「事前学習会のおかげで能に関する理解を深め、鑑賞を楽しむことができた」との声があり、事前学習会の重要性を認識しました。

国立能楽堂では、解説「能楽の楽しみ」を見た後、狂言「清水」、能「小鍛冶」の演目を鑑賞しました。「能楽の楽しみ」の中で、国立能楽堂にORIHARA氏が描いた歌手「Ado」のイラストが飾られていることを紹介されて、参加者は興味深く鑑賞していました。「Ado」という名前の由来は、小学生の時、国語の授業で聞いた、狂言の「シテ」と「アド」が由来。響きのかっこよさに惹かれて名乗ったが、主役のシテを支えるのが脇役のアドと知り、自分の曲を聴いてくれる人に代わって戦う存在、誰かの人生の脇役になりたいという意味も込めているそうです。

課外教養プログラムでは、今後も日本文化についての知識を身に付け、体験を通して学ぶことのできるプログラムを実施していきます。

【参加学生による感想】

- ・能楽研究会の資料が大変ていねいで読みやすくわかりやすかった。
- ・舞を実演して、事前に見れて良かった。
- ・とてもわかりやすく興味を持ってました。初心者にはありがたかったです。
- ・面白かった。



プログラムの様子



国立能楽堂の依り代（「Ado」のイラスト）

多目的室利用講習会

日時

2022年6月 9日(木) 17:00~18:00
2022年6月 13日(月) 17:00~18:00

場所

市ヶ谷キャンパス外濠校舎地下1階多目的室1

概要

- 参加者数：20名(6月9日)
29名(6月13日)
- 講師：舞台技術研究会
- 実施目的：
 - 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
 - 多目的室の利用マナー、機材利用方法を学び正しく施設を使用ようになる

4. 内容：

6月9日・13日に2022年度に多目的室を利用する団体向けに利用の基本的なマナー、および専門的な音響・照明設備の概要と扱い方・照明と音出し等比較的操作が簡単な機材の操作方法を習得してもらう事を目的として、「多目的室利用講習会」を実施しました。

講習会では基本的なマナーや操作方法だけでなく、各機材の適正な使用方法だけでなく、多様な表現方法も学んで頂きました。

当日は、ステージの照明・音響設備の操作を専門的に行う舞台技術研究会(本学登録団体)さんにご協力頂き、音楽活動、演劇活動を行う各団体に対して、レクチャーをして頂きました。各団体が共用して使用する場所である為、今回学んだ知識を活かして、自団体の活動をより本格的にするだけでなく、次に使用する団体が気持ちよく使えるように配慮をして頂きたいと思います。

多目的室での利用が練習のみや照明、音響機材を使用しないで利用する団体には多目的室利用マナーのみの講習を受けて頂きました。

講習会の後は、コロナ禍の影響で実施が出来なかった多目的室1~3の大掃除を行いました。

主に床の掃き掃除と空調の掃除をメインに行いましたが、多目的室1の大掃除では、ステージ台の下の床面保護シートの貼り替えを行いました。今後は施設を綺麗に使えるようになったかと思います。

課外教養プログラムでは今後も本学サークルを講師とした企画を多く実施予定です。

学生センター・課外教養プログラム(学芸大学後援会補助事業)

2022年度「多目的室・オレンジホール」利用講習会

外濠校舎地下1階にある「多目的室」と、東土井ゲート地下2階にある「オレンジホール」を利用する団体を対象に「利用講習会」を開催します。
この講習会では、音響照明機材の操作講習だけでなく、利用マナー講習も行います。
今年度、多目的室・オレンジホールの利用を希望する団体は、必ず受講して下さい。方が、サークルとしてどなたの参加もない場合には、いかなる理由でも受講しなかった場合は、前年度受講した団体も新たに受講する必要がありますのでご注意ください。

A: ライブや公演・展示等で音響照明機材を使用する団体は、音響照明機材の操作講習会および利用マナー講習会を受講して下さい。受講者には2022年度分の椅子が貸付され、音響照明機材を使用できるようになります。
(※定員は20名までです。)

【機材講習会】
機材講習会では、音響照明機材の概要と扱い方・明かり出し・音出し等の機材の操作方法を指導し、自らの操作で一定の音響照明効果を得られるようになることを目的としています。
B: 機材講習会で使用する団体(音響照明機材を一切貸付しない)は、利用マナー講習会のみを受講してください。

【利用マナー講習会】
利用の基本的なマナーや状況説明について説明します。

1. 日時：
多目的室
A. 機材講習会+利用マナー講習会
下記①~②の時間帯のうち1回を受講して下さい。
※講習会終了後、大掃除を行います。
① 6月9日(木) 17:00~18:00 ② 6月13日(月) 17:00~18:00
B. 利用マナー講習会のみ
下記③~④の時間帯のうち1回を受講して下さい。
※講習会終了後、大掃除を行います。
③ 6月9日(木) 17:30~18:00 ④ 6月13日(月) 17:30~18:00
17:20ごろに多目的室の前廊下にて集合して下さい。
オレンジホール
A. 機材講習会+利用マナー講習会
下記①~②の時間帯のうち1回を受講して下さい。
① 6月23日(水) 17:00~18:00 ② 6月27日(日) 17:00~18:00
B. 利用マナー講習会のみ
下記③~④の時間帯のうち1回を受講して下さい。
※講習会終了後、大掃除を行います。
③ 6月23日(水) 17:30~18:00 ④ 6月27日(日) 17:30~18:00
17:20ごろにオレンジホール前廊下にて集合して下さい。

2. 受講対象：多目的室・オレンジホール利用を希望する団体の所属員、1団体2名まで受講可能

3. 場 所：多目的室1(6/9・6/13)、オレンジホール(6/23・6/27)

4. 講 師：舞台技術研究会

5. 申込方法：下記のGoogleフォームに必要事項をご入力の上、お申し込みください。
<https://forms.gle/BJ1hGm8UXG3i43jsgA>

6. 申込期間：5月13日(金)~6月2日(金)
※希望者多数の場合は、参加期間等を変更していたことがありますので、お早めに申込をして下さい。

2022年5月13日
学生センター

プログラムの様子



バッグにファッションにインテリアに…なんでも風呂敷にお任せ！

日時 2022年6月15日（水）17:00～18:40

場所 小金井キャンパス西館2階W206教室

概要

- 参加者数：8名
- 講師：つつみ純子氏（風呂敷文化研究家）
- 実施目的：
 - 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
 - 風呂敷の使い方に関する教養を身に付ける

4. 内容：

グローバル化が進む昨今、若者が日本の伝統文化に触れる機会は年々少なくなっています。この傾向が強まると、「自国の魅力を正確に伝える」という重要なスキルが失われてしまう可能性があります。加えて、コロナ禍において学生同士の交流する機会が減っていることも問題として挙げられます。

本プログラムは、こうした問題に直面している学生達が、風呂敷の使い方を知ることによって日本文化の魅力を再発見し、また、グループワークを通して学生同士の交流を促進することを目的に企画立案しました。

講師として、テレビ番組や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会応援動画へのご出演経験もある、風呂敷文化研究家のつつみ純子様をお招きしご講演いただきました。

まず講義では、風呂敷の歴史やサイズ・素材・文様など、風呂敷の基本情報についてお話しがあり、「なぜ”風呂敷”という名前なのか」「なぜ泥棒といえば緑の唐草文様の風呂敷なのか」といった風呂敷の知識を深めることができました。

グループワークでは、参加者同士でサポートし合いながら代表的な風呂敷包みを実践したり、「瓶5本の安定した包み方は？」という課題に取り組んだりしました。畳めばポケットの中にも収納することもできるサイズの布一枚だけで何でも包むことを可能にした、先人の柔軟な発想に感心しました。また、撥水性があり絞るとシャワー状に水を出す特別な風呂敷にも触れる機会もありました。災害時には水の濾過にも活用できるということで、近年の風呂敷の発展にも感銘を受けました。

本プログラムを通じて、日本人の和の心や生活文化を風呂敷から学ぶことができました。

参加者の皆様にとって、本プログラムが日本の誇るべき伝統文化に関心を持つきっかけとなれば幸いです。

【報告・KYOPROスタッフ】 赤田萌々（生命科学部生命機能学科3年）



プログラムの様子



はじめての点字～知ってつながる社会の輪～

日時 2022年6月17日(金) 16:50～19:00

場所 市ヶ谷キャンパス外濠校舎5階523～526短期会議室

概要

1. 参加者数：21名
2. 講師：三宅隆氏（日本視覚障害者団体連合組織部長）
3. 実施目的：
 - 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
 - 点字を通して視覚障がいに関する教養を身に付ける

4. 内容：

6月17日、法政大学課外教養プログラム「初めての点字～知ってつながる社会の輪～」を実施いたしました。

本企画は、点字を通して視覚障がいに関する教養を身につけることを目的とした企画です。点字についての知識

や視覚障がい者の方の生活や体験談を学ぶ事で、視覚障がいに関

する理解を深めて多様な社会について学生が考えるきっかけになることを期待して実施いたしました。今回の企画は、ボランティア分野に関係するため、ボランティアセンターの学生スタッフであるVSP（ボランティア支援プロジェクト）と協同で企画・運営を行いました。講師には日本視覚障害者団体連合組織部長の三宅隆氏をお迎えしました。三宅氏は22年間、盲学校の点字教科書や自治体広報などを製作する点字出版所に勤務したのち、全国の視覚障害者協会の連合組織である日本視覚障害者団体連合に勤務されています。

本企画は、対面にて実施しました。企画のはじめにグループワークとして、大学内の点字を探索し、その点字の意味やその場所に点字があること背景をディスカッションしました。点字探索では、大学校舎内をグループごとに分担し探索を行いました。スタッフが想定していたよりも多くの点字を参加学生が発見するほど積極的な姿勢が見られました。またディスカッションにおいては、初対面ながらも各グループの議論が途絶えないほど熱心に取り組む様子が見られました。グループワークを行った後に講師の登壇パートとして、点字の読み方や点字の役割、視覚障害をお持ちの三宅氏の日常生活についてのお話を伺いました。三宅氏が点字シートや点字がついている商品を提供して下さり、学生が実際に見たり触れたりしながらお話を聞くことにより、点字についての理解がより深まりました。講義の中では学生が点字シートを参考にして、実際に点字のついている商品の点字に触れながら点字の読解を行う様子が見られました。

三宅氏の講演が終了した後は、質疑応答の時間と感想発表の時間を設け、参加学生が積極的に質問と感想発表を行っていました。電車内や駅のホームで視覚障がい者にあつたときにどうすればいいのかという質問から、視覚障がい者を他人事ではなく、自分事として捉えている様子が見られました。

また、感想の時間では、今回の企画を通して視覚障がい者の苦勞がより分かったという声が聞かれました。

新型コロナウイルスの感染が落ち着き、実際に大学内での点字探索や点字に触れながら理解を深めることができ、有意義な時間だったのではないかと思います。今回の企画で、視覚障がい者を他人ごとではなく自分事として捉え、点字を通して多様な社会について考えるきっかけになってくれたならば幸いです。

【報告・KYOPRO スタッフ】吉村 秀斗 法学部政治学科4年



点字に触れたのは今回が初めてでした。点字も言語であるので、それを必要としている人は大勢います。その中で、点字企画として、今回僕が携われて、講師の方からお話を聞いたのは本当にありがたいことでした。

最後の参加者の感想を改めて思い返してみると、車椅子の段差レスに対するニーズがある一方で、視覚障がい者の段差があることでの一つの信号となること、これはお互いのバリアフリーがバッティングしてしまう！ということを描き出されている参加者がいて、自分も感心してしまいました。

まずは知ることがはじめの一歩だと思うので、課外教養プログラムプロジェクトさんとこのような企画ができて、有意義な時間を過ごせたのでよかったです。

【VSP スタッフ】杉山裕都 法学部政治学科3年

プログラムの様子



歌舞伎鑑賞教室

日時 6月18日(土) 14:30~17:00

場所 国立劇場

概要

- 参加者数：26名(うち、留学生4名)
- 実施目的：
 - 日本の伝統芸能の1つである歌舞伎の鑑賞を通じて、日本文化を体験する。



3. 内容：

6月18日(土)、学生センターの課外教養プログラム「歌舞伎鑑賞教室—日本文化を学ぼうシリーズ—」を実施しました。本プログラムは、鑑賞を通じた日本文化に関する教養教育を目的として、実施しました。

鑑賞教室は国立劇場で実施されました。今回の演目「彦山権現誓助剣」は人形浄瑠璃劇で初演されたもので主人公である六助の敵討ちをベースにした物語でラブストーリー様子も含んだ笑いあり涙ありの歌舞伎演目でした。この演目は、時代劇やお家騒動をベースにした歌舞伎とは異なり、事前知識や背景が分からなくても話の内容が掴みやすい為、参加者の学生は楽しみながら、鑑賞をする事が出来ました。

冒頭の40分は「解説 歌舞伎のみかた」として、物語の時代背景や人物相関図といった内容の説明だけでなく、黒御簾音楽、舞踊の表現方法といった歌舞伎の基本的な説明を交えて、歌舞伎の基礎について分かりやすくご紹介頂きました。解説を担当して頂いた、中村玉太郎さんによる説明は面白く、参加者は終始笑顔で聞いていました。途中、実演を交えた説明の場面では、なかなか目にする事のない歌舞伎の実演に興味津々とした様子で説明に聞き入る姿が印象的でした。

その後、参加者は実際に「彦山権現誓助剣」を鑑賞しました。感情表現の豊かな演技や迫力のある役者の立ち居振る舞い等、魅力的な演技の様子に参加者は真剣に鑑賞していました。また、冒頭の解説のおかげで、初めて歌舞伎を鑑賞する学生でも楽しく鑑賞する事が出来ました。

本プログラムは、早々に参加者募集が定員に達し、留学生の参加も多く見受けられました。参加者からは、「歌舞伎のみかたの解説があったため、本編が見やすかった。また、歌舞伎自体への理解も深まった。」「今回はじめて歌舞伎を鑑賞しました。本企画が私自身、日本の伝統文化に触れるきっかけとなり、内容も興味深くよかったです。今日はありがとうございました。」という声があり、学生にとって貴重な経験になったようです。

課外教養プログラムでは、今後も日本の伝統文化に関する知識を身につけ、体験を通して学ぶことの出来るプログラムを実施していきます。

プログラムの様子



DIALOG・IN・THE・DARK ～暗闇から生まれる数々の発見を求めて～

日時 2022年6月18日(土) 12:50～16:50

場所 アトレ竹芝シアター棟1F
ダイアログ・ダイバーシティミュージアム
「対話の森」
(東京都港区海岸 1-10-45)

概要

1. 参加者数：17名

2. 実施目的：

- 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
- 視覚障がい者への理解を深める、また対話の本質とは何かを考える

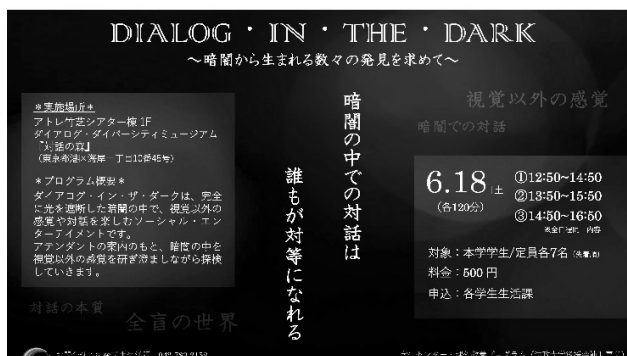
3. 内容：

6月18日(土)に課外教養プログラム「DIALOG・IN・THE・DARK～暗闇から生まれる数々の発見を求めて～」を開催いたしました。DIALOG・IN・THE・DARKとは、視覚障害者の案内の下、完全に光を遮断した“純度100%の暗闇”の中で、視覚以外の様々な感覚やコミュニケーションを楽しむソーシャル・エンターテインメントです。ここでの体験を通して、本当の対話とは、本当に必要な言葉とは何か、全盲の方の世界とはどういうものなのか、「人」のぬくもりとは何か等、生きていく上で必要な様々なことを学び、考えることを目的として開催いたしました。

暗闇での体験では、まず、視覚障害者のアテンダントの方から白杖を渡され、ニックネームを参加者全員と共有した後、暗闇の世界へと入っていきます。真っ暗な世界では本当に何も見えず、声と触覚のみが自分を伝え相手を知る唯一の手段となります。そのような不思議な状況で、アテンダントの方の誘導に従って、日常を体験します。視覚がないというだけで、この日常がいかに難しく怖くて大変なことだと知ったと同時に、普段より新鮮であたたかくて楽しくて優しい世界を感じました。

体験を経て、参加者で体験の感想を共有し「自分がこんなに話せるとは思わなかった」「全身を使ったコミュニケーションが対話だと気づかされた」「人は助け合わなければ生きていけないことを確認できた」など、さまざまな感想がありました。

最後に私の感想を書かせていただきます。目を使って生活していると「この人は障害者なんだ、できないことがたくさんありそうだから手伝ってあげなきゃな」と見た目で判断して、自分でその人の限界を決めてしまいます。今回の体験を通して、その考えが間違っていると気付かされました。暗闇に入ると、健常者と視覚障害者の立場が逆転し、自分よりできないことが多いと思っていた人がとても頼もしく、強さを感じられます。これから生きていく上で、単に障害者は大変だから助けてあげなくてはということでは

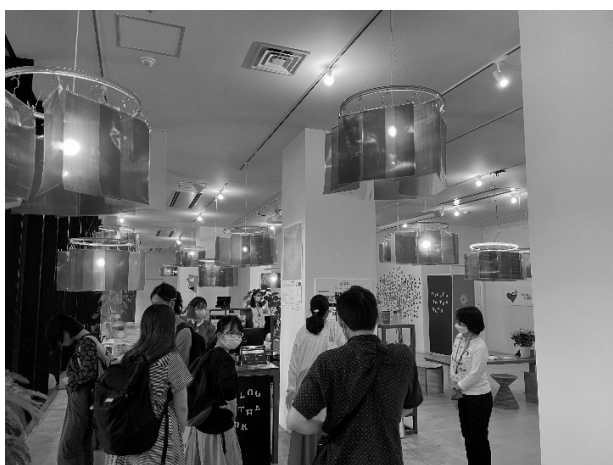


なく、お互い助け合いながら対話を通してその方の凄さを本人や他の人に伝えていかなければいけないことを痛感しました。

このように、本プログラムを通して感じるものは人それぞれであり、どれも正解だと思います。今後生きていく上での糧となれば幸いです。また、今回の学びをさらに深め、日常生活に活かしていただけることを願っています。

【報告・KYOPRO スタッフ】徳廣 怜 現代福祉学部福祉コミュニティ学科3年

プログラムの様子



ミュージカル鑑賞教室～「劇団四季」を見に行こう～

日時 2022年6月20日(月) 17:00～18:30 (事前学習)
2022年6月21日(火) 18:00～ (観劇)

場所

市ヶ谷キャンパス外濠校舎5階523～526短期会議室(事前学習)
JR東日本四季劇場(秋)(観劇)

概要

- 参加者数：23名(事前学習)
39名(観劇)
- 講師：四季株式会社 木崎氏(事前学習のみ)
- 実施目的：

- ミュージカル鑑賞を通じた芸術文化に関する教養教育。
- コロナ禍によって薄れてしまった学生同士の交流の活発化

4. 内容：

6月20日・21日に学生センター主催課外教養プログラム「ミュージカル鑑賞教室」を実施致しました。本プログラムは劇団四季を運営している四季株式会社様のご協力の下、事前学習と観劇の2つの構成で実施致しました。

20日の事前学習では劇団四季がどのような経緯で設立されたのか、劇団四季の特徴や俳優の発音トレーニング法等についてレクチャーして頂いた後に、質疑応答を行いました。講義では学生が真剣に話を聞く様子が印象的でした。その後の質疑応答では多くの学生から質問があり、講義を行った木崎氏には遅い時間まで質問に対応して頂きました。学生の中にはコアな劇団四季ファンの学生やエンタメ業界に就職を考えている学生といった様々な学生が参加しており、それぞれの学生が思い思いに質問をしている様子が印象的でした。

21日はJR東日本四季劇場(秋)にて観劇を行いました。観劇したのは「バケモノの子」という劇団四季最新の公演で、近年アニメ映画でも公開され、話題となっている公演です。その為、本企画は早々と定員満員になった人気企画となりました。学生は1人で参加する方もいれば友人同士で参加する方もおり、思い思いに観劇を楽しんでいる様子でした。企画終了後に実施した参加者向けアンケートでは、「事前学習でお話を聞いていたこともあり、より深い意味で物語に触れられたような気がしました。」という意見や「劇団四季という世界トップクラスのミュージカルを観ることができて、とても貴重な経験をさせていただいて嬉しかったです。」という意見を頂きました。このことから事前学習の効果や劇団四季の公演自体にも学生にとって大きな効果があるという事を実感しました。

学生センター主催課外教養プログラム
(法政大学後援会補助授業)

鑑賞プログラム
「バケモノの子」

劇団四季
驚天動地
バケモノの子

ミュージカル
鑑賞教室

課外教養プログラム

※事前学習では、劇団四季社員の方から、劇団四季ミュージカルの魅力や社員の方のキャリア等についてご講演頂きます。

実施日：
6月20日(月) 17:00～(事前学習)
6月21日(火) 17:15(集合)/18:00(開演)

場所：
(事前学習) 外濠校舎5階523～526短期会議室
(鑑賞) JR東日本四季劇場

定員：40名
料金：1,000円
対象：本学学部生

注意事項
申込後、学生センターよりチケットの受け渡し連絡があるの
で、大学からの連絡は逐一確認するようして下さい。
コロナウイルス感染状況によっては、開催が中止になる恐れ
があります。予めご了承下さい。

お申し込み、各学生生活課
お問い合わせ:03-8264-9475

課外教養プログラムでは、今後も芸術文化に関する知識を身につけ、体験を通して学ぶこと・学生同士で交流が出来るプログラムを実施していきます。

プログラムの様子



オレンジホール利用講習会

日時

2022年6月23日(木) 17:00~18:00
2022年6月27日(月) 17:00~18:00

場所

市ヶ谷キャンパス富士見ゲート校舎
地下2階オレンジホール

概要

- 参加者数：25名(6月23日)
15名(6月27日)
- 講師：舞台技術研究会(本学登録団体)
- 実施目的：
 - 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」
 - オレンジホールの利用マナー、機材利用方法を学び正しく施設を

4. 内容：

6月23日・27日に2022年度にオレンジホールを利用する団体向けに利用の基本的なマナー、および専門的な音響・照明設備の概要と扱い方・照明と音出し等比較的操作が簡単な機材の操作方法を習得してもらう事を目的として、「オレンジホール利用講習会」を実施しました。

講習会では基本的なマナーや操作方法だけでなく、各機材の適正な使用法だけでなく、多様な表現方法も学んで頂きました。

当日は、ステージの照明・音響設備の操作を専門的に行う舞台技術研究会(本学登録団体)さんにご協力頂き、音楽活動、演劇活動を行う各団体に対して、照明の使い方や照明卓の操作方法をレクチャーをして頂きました。各団体が共用して使用する場所である為、今回学んだ知識を活かして、自団体の活動をより本格的にするだけでなく、次に使用する団体が気持ちよく使えるように配慮をして頂きたいと思えます。

オレンジホールでの利用が練習のみや照明機材を使用しないで利用する団体にはオレンジホールの利用マナーのみの講習を受けて頂きました。利用マナー講習は学生センター職員が行い、施設の基本的な使い方や備付の音響操作卓の使用方法等について説明を行いました。

講習会の後は、コロナ禍の影響で実施が出来なかったオレンジホールの大掃除を行いました。

主に床の掃き掃除をメインに行いましたが、オレンジホールの大掃除ではオレホ備付の階段型観覧席の掃除や倉庫の掃き掃除も行って頂きました。ご協力頂いた団体の皆様、ありがとうございました。

課外教養プログラムでは今後も本学サークルを講師とした企画を多く実施予定です。

学生センター・課外教養プログラム(法政大学後援後援会)

2022年度「多目的室・オレンジホール」利用講習会

外濠校舎地下1階にある「多目的室」と、富士見ゲート地下2階にある「オレンジホール」を利用する団体を対象に「利用講習会」を開催します。

この講習会では、音響照明機材の操作講習だけでなく、利用マナー講習も併せて行います。

今年度、多目的室・オレンジホールを利用を希望する団体は、必ず受講して下さい。乃が、サークルとしてご自身の参加も無い場合は、しかなる理由であろうと今年度の利用は認められません。

また、昨年度受講した団体も新たに受講する必要がありますのでご注意ください。

A: ライブや公演、展示等で音響照明機材を使用する団体は、音響照明機材の操作講習会および利用マナー講習会を受講して下さい。受講料には2022年度分の終了証が交付され、音響照明機材を使用できるようになります。※受講料は20名までです。

【機材講習会】
機材講習会では、音響照明機材の概要と扱い方・音出しや音出し等の機材の操作方法を指導し、自らの操作で一定の音響効果を得られるようになることを目的としています。

B: 練習目的で使用する団体(音響照明機材を一切使用しない団体)は、利用マナー講習会のみを受講で結構です。

【利用マナー講習会】
利用の基本的なマナーや機材操作について説明します。

1. 日時：
多目的室

A. 機材講習会+利用マナー講習会※ライブや公演等で音響照明機材を使用する団体対象
下記①~②の時間帯のうち1回を受講して下さい。
※講習会終了後、大掃除を行います。
① 6月9日(木) 17:00~18:00 ② 6月13日(月) 17:00~18:00

B. 利用マナー講習会のみ※練習目的で使用する団体対象
下記③~④の時間帯のうち1回を受講して下さい。
※講習会終了後、大掃除を行います。
③ 6月9日(木) 17:30~18:00 ④ 6月13日(月) 17:30~18:00
17:20ごろに多目的室前の廊下に集合して下さい。

【オレンジホール】

A. 機材講習会+利用マナー講習会※ライブや公演等で音響照明機材を使用する団体対象
下記①~②の時間帯のうち1回を受講して下さい。
① 6月23日(木) 17:00~18:00 ② 6月27日(月) 17:00~18:00

B. 利用マナー講習会のみ※練習目的で使用する団体対象
下記③~④の時間帯のうち1回を受講して下さい。
③ 6月23日(木) 17:20~18:00 ④ 6月27日(月) 17:30~18:00
17:20ごろにオレンジホール前の廊下に集合して下さい。

2. 受講対象：多目的室・オレンジホール利用を希望する団体の所属員、1団体2名まで受講可能

3. 場 所：多目的室1(6/9・6/13)、オレンジホール(6/23・6/27)

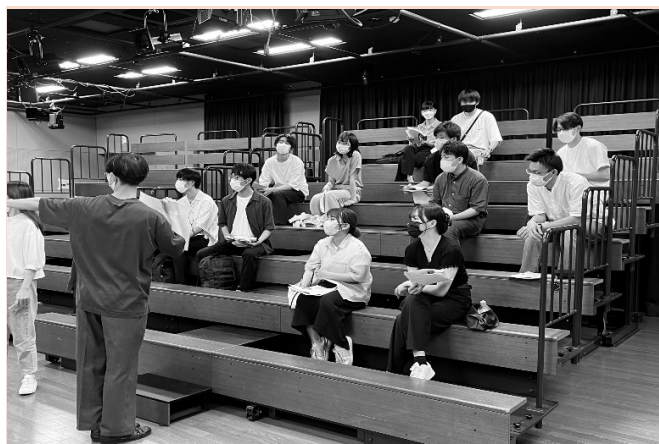
4. 講 師：舞台技術研究会

5. 申込方法：下記のGoogleフォームに必要事項をご記入の上、お申し込みください。
<https://forms.gle/B1tGm8LUXG3f4Gf8A>

6. 申込期限：5月13日(金)~6月2日(金)
※希望者多数の場合は、参加時期を変更していただくことがありますので、お早めに申込して下さい。

2022年5月13日
学生センター

プログラムの様子



三曲体験教室-日本文化を学ぼうシリーズ-

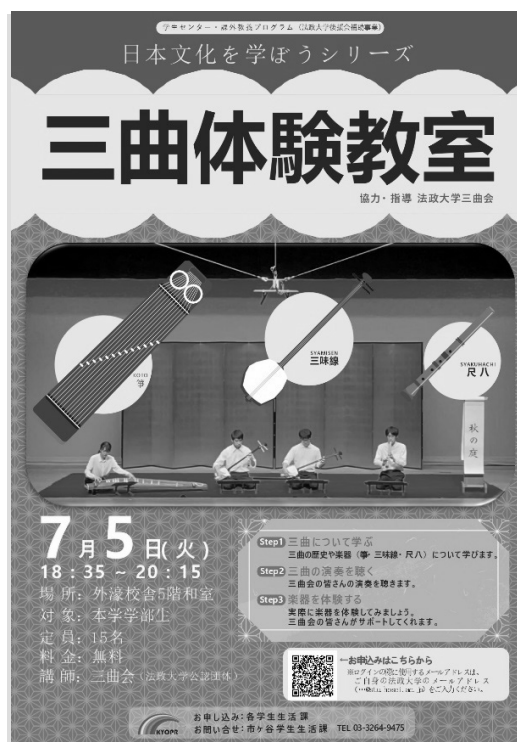
日時 2022年7月5日(火) 18:35~20:15

場所 市ヶ谷キャンパス外濠校舎5階 和室

概要

1. 参加者数：12名(うち、留学生2名)
2. 講師：法政大学三曲会(法政大学登録団体)
3. 実施目的：
 - 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
 - なかなか体験出来ない和楽器を体験してもらい、日本の伝統文化に対する理解を深める、関心を持つきっかけを作る
4. 内容：

7月5日(火)、学生センター・課外教養プログラム「三曲体験教室-日本文化を学ぼうシリーズ-」を実施しました。



本企画は、三曲(三味線・箏・尺八)鑑賞と、体験を通じた伝統芸能に関する教養教育を目的として実施しました。

プログラムでは、本学の登録団体である三曲会が講師となり、三曲の歴史や楽器について学びました。また、学んだうえで実際に三曲会の皆さんによる演奏を聴きました。箏・尺八・三味線の順でパート毎に演奏をして頂き、楽器ならではの音色を楽しむことが出来ました。パート毎の演奏の後には、三曲合奏を行って頂きました。1つ1つの楽器が合わさると迫力のある演奏となり、参加学生は演奏を楽しんでいる様子でした。

その後は、三味線、箏、尺八の3グループに分かれて、楽器の演奏を体験しました。三曲会の皆さんが参加学生について体験のサポートにあたり、お互いに楽しそうに楽器を演奏していました。なかでも尺八は初心者には難しいようで、音を鳴らそうと熱心に取り組んでいる様子が印象的でした。一番人気が高かった箏では、多くの参加学生がきれいな「さくらさくら」を演奏できたようです。

参加学生からは、「演奏の体験も楽しかったが、三曲会の楽器に関する説明や演奏もとても面白かった」「もっと演奏したい」など、多くの感想をいただきました。なかには、プログラム終了後も三曲会の学生と話している参加学生もあり、本プログラムは学生同士の交流の場ともなりました。

課外教養プログラムでは、今後も日本文化についての知識を身に付け、体験を通して学ぶことのできるプログラムを実施していきます。

【三曲会代表 梶さんの感想】

体験教室では和楽器体験だけでなく、私たちの演奏も聴いていただきました。今年度の定期演奏会で披露する曲も含まれていたため、こちらにとっても良い機会になったと思います。楽器体験では、各楽器を20分ずつ体験していただきました。私は尺八の講師をしましたが、とても難しい楽器なので、20分でその魅力を伝えきるのは少し難しかったです。それでも皆さん音を出そうと一生懸命に頑張ってくれていたため、こちらもとても楽しかったです。他の楽器を体験してくれた人たちもとても真剣に向き合ってくれていた様子でした。和楽器の魅力が少しでも伝わっていれば嬉しいです

来てくれた皆様、本当にありがとうございました！

プログラムの様子



日本社会で成功するためのIT

日時 2022年9月26日(月) 13:40~15:20

場所 ・多摩キャンパス EGG DOME 5階ホール
・オンデマンド配信

概要

1. 参加者数：79名(対面14名、オンデマンド65名)
2. 講師：江崎和博氏(世界品質戦略研究所 所長)
3. 実施目的：

- 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
- ITと日本社会、日本経済に関する知識を身につけ、ITに関する意識の醸成に繋げる

3. 内 容：

2022年9月26日(月)に、「日本社会で成功するためにIT」を対面で開催いたしました。また、こちらの講演の様子は後日、希望者にオンデマンドとして、動画配信も実施いたしました。

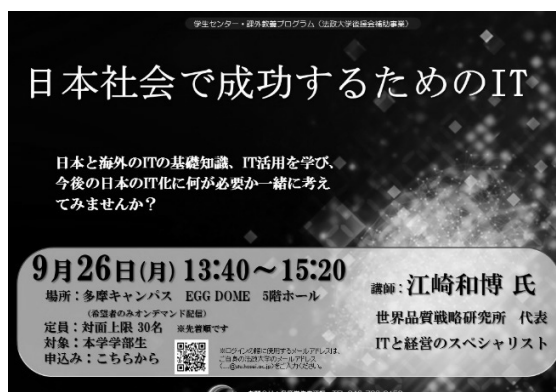
「IT」という言葉は教科書や新聞などで目にする機会が多かったものの、なかなかそれが日本社会にどう影響しているのか、そして我々は「IT」とどう付き合っていくべきなのか、について詳しく学ぶ機会が多くありませんでした。しかし、今後の社会を生きていく上で「IT」と縁を切るのは不可能に近いため、ITと社会の関わりについて詳しく学ぶプログラムを開催いたしました。

本プログラムの講師には世界品質戦略研究所代表の江崎和博氏をお招きいたしました。講義では、ITの現在に至るまでの変遷とこれからの展望について、また日本と海外のITの普及率などを客観的データを用いてご説明いただきました。また最後には、ITの活用方法を含む社会で生き抜くための心構えなどもお話しいただき、今後社会人生活を始める我々学生にとって大変貴重な機会となりました。

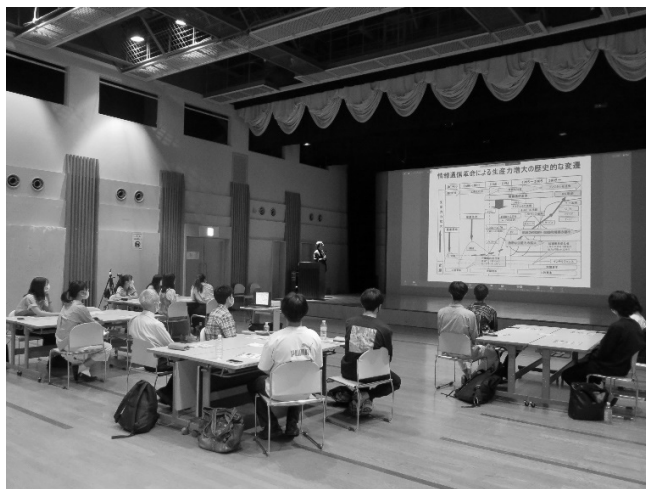
多摩キャンパスの課外教養プログラムプロジェクトでは、新型コロナウイルス感染症の影響で約2年間、ZOOMを利用したオンラインでの実施を軸にプログラムを開催しておりました。今回のような対面実施は久方ぶりのため、色々と新鮮に感じると同時に、対面ならではの良さも改めて認識することができました。今後の新型コロナウイルスの感染状況にもよりますが、対面での実施を増やしていく予定です。

今後とも、よろしくお願い致します。

【報告・KYOPROスタッフ】川本友希 経済学部国際経済学科2年



プログラムの様子



このプログラムをきっかけに、富士山の噴火について学んだ学生が噴火による災害だけでなく、日本で起こり得る様々な災害について関心を持ち、自身を守る為の防災対策について考え、常に情報に対してアンテナを張り続けようと思っていただければ幸いです。

KYOPRO 学生スタッフ 中川月海 (文学部哲学科 1年)

プログラムの様子



東京ジャーミイに行く！ ～日本におけるイスラム・モスク～

日時

2022年11月12日(土)
10:40～12:20(事前講義)
14:30～16:00(モスク見学)

場所

市ヶ谷キャンパス外濠校舎5階523～526短期会議室(事前講義)
東京ジャーミイ(モスク見学)

概要

- 参加者数：25名
- 講師：松本隆志氏(法政大学兼任講師)※事前講義のみ
- 実施目的：
 - 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
 - 異文化に触れる機会を提供することで異文化への理解を深めるきっかけとする
- 内容：

11月12日、法政大学課外教養プログラム「東京ジャーミイに行く～日本におけるイスラム・モスク～」を実施いたしました。

本プログラムは、参加学生にイスラム世界の文化や歴史を学んだ後、異文化に触れる機会を提供することで異文化への理解を深めるきっかけとする事を目的とした企画です。午前中にイスラム世界やモスクについての事前講義を受け、そこで理解を深めた後、午後に日本最大級のモスクである東京ジャーミイ・ディヤナート トルコ文化センターを見学するという構成で実施致しました。

午前中の事前講義には、講師として、松本隆志先生をお招きしました。松本先生は初期イスラム史を専門とし、法政大学や中央大学等でイスラム通史やイスラム世界の諸事情などの授業を担当されています。本企画の講義では、イスラム教の成立や礼拝方法、日本におけるモスクの機能などについて取り上げられ、参加者はモスク見学の前にイスラム世界への理解を深めました。また、講義終了後に行われたグループワークでは、ほとんどの参加者が初対面ながら、どのグループも大いに議論が盛り上がっていました。そして、グループワーク終了後の質疑応答の時間では、積極的に質問する参加学生が多くいたことが印象的でした。

事前講義終了後、お昼休憩を挟んでから、午後には東京ジャーミイ・ディヤナート トルコ文化センターでスタッフの方からモスクの成立過程の説明などを受けながら見学を行いました。モスク内の見学では、多くのイスラム教徒の方々が礼拝する様子や当日偶然行われたモスク内での結婚式を主催者の方の許可を頂き、その様子も見



学させていただきました。日本の結婚式とは異なった様式で行われ、その見学が出来たことは参加学生にとって、とても貴重な経験であったと感じています。

本企画が参加学生の皆様にとって、実際にモスクを訪れたことで普段触れる機会の少ない異文化を身近に感じ、イスラム世界への理解だけでなく様々な文化へ興味を持つきっかけとなれば幸いです。

【報告・KYOPRO スタッフ】岩崎正太郎 経営学部経営学科 2年

プログラムの様子



国ごとに違う！？デザインから学ぶユーロの秘密

日時 2022年11月15日(火) 17:20~19:00

場所 多摩キャンパス 総合棟4階 多目的教室

概要

1. 参加者数：9名
2. 講師：二橋瑛夫氏（国際博物館会（ICOM）貨幣博物館専門委員会（ICOMON）所属）
3. 実施目的：
 - 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
 - ユーロ貨幣を通して、ヨーロッパの文化的背景を学ぶ
4. 内容：

2022年11月15日(火)に課外教養プログラム「国ごとに違う！？デザインから学ぶユーロの秘密」を対面にて実施しました。

このプログラムは、世界コイン研究会会員（前副会長）の二橋瑛夫氏を講師として迎え、ユーロのデザインや貨幣に関する様々な知識をご教授いただくことで、私たちにとって身近な存在である貨幣を見つめ直すことを目的とした企画でした。

プログラム当日では、まず「ユーロの発展史」について、二橋氏による講義を行いました。各国におけるユーロ・コインの流通や製造時間、さらに「EUに加盟しているのにユーロを使わなかった理由」などのようなより深い内容となり、参加者の知的好奇心を刺激し、興味津々な様子でまだ知られていないユーロ世界の秘密を十分に楽しんでいました。そして、二橋氏による講義が終わった後、貨幣（主にコイン）を自由に鑑賞する時間をいただきました。

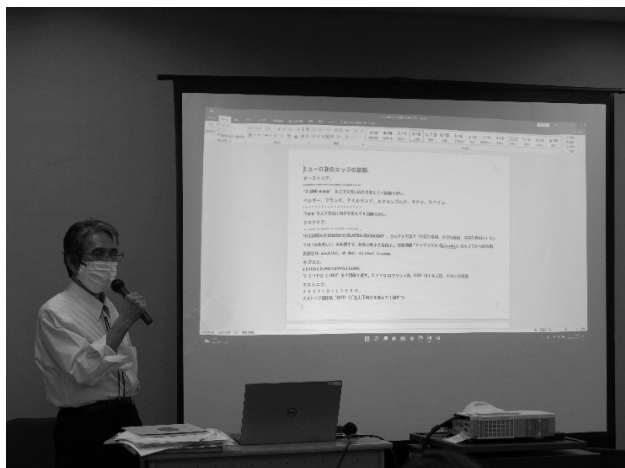
参加者はヨーロッパの様々な国のユーロ・コインをじっくり鑑賞したり、丁寧に触ったり、気になったデザインを撮ったり、考えたことを隣にいる人と分かち合ったりして、和気あいあいとした時間を過ごしました。また、鑑賞時間では二橋氏も参加者同士のコミュニケーションに入り、談笑をしている姿が多く見られました。

私たちにとって、貨幣は単なる支払い手段の一つとして見られるかもしれませんが、その中には世界中の職人たちの技術、国を代表する者として創意工夫を凝らしたデザイン、様々な国の歴史や文化などが凝縮された集大成であることを忘れてはいけません。このプログラムで学んだ内容を通して、少しでも貨幣についてもっと深く考えるきっかけに繋がれば幸いです。

【報告・KYOPRO スタッフ】 李子帥 現代福祉学部福祉コミュニティ学科 2年



プログラムの様子



危険ドラッグの恐ろしさ ～薬物乱用防止セミナー～

日時 2022年11月18日(金) 15:30～16:40

場所 Web会議ツール「Zoom」上

概要



1. 参加者数：145名
2. 講師：鬼頭英明氏（法政大学スポーツ健康学部教授）
3. 実施目的：薬物の知識と心身に与える影響を正しく理解し、誘惑を断る意志確立と正しい規範育成を支援する。

4. 内容：

2022年11月18日に課外教養プログラム「危険ドラッグの恐ろしさ ～薬物乱用防止セミナー～」を実施しました。

本プログラムは、2012年度より実施しているプログラムで、本年度は昨年度同様オンライン開催としました。保健教育学を専門とする本学スポーツ健康学部の鬼頭先生をお招きし、大学生の薬物への意識や実態、健康への影響、薬物依存のきっかけなど様々な角度から薬物の危険性をお話いただきました。プログラム終了後は大学ホームページ上で期間限定のオンデマンド配信を行い、各学生団体の代表者は所属員への共有用として活用しました。

以下、学生アンケートです。（記された文面のまま記載）

- ・保健体育等で学んだ薬物の知識よりも、さらに広い知識を学べた。また、薬物を勧められる環境にないため、こういった手口が存在するかなどを知る良いきっかけとなった。
- ・自分は今後留学に行くため、より注意してその期間過ごす必要があると思った。また、コミュニケーションは、良好な関係を作るだけでなく、薬物から身を守る意味でも大切だと思った。
- ・これから海外にも渡航しようと考えていたが、今日の話聞くまで薬物のことは考えていなかったのでグローバルな規模な話もしていただけて助かりました。学びになりました
- ・実際に薬物を使用してしまった人の直筆の文を読むことができたり、データを活用した説明がありとても説得力がありわかりやすかった。サークルにも共有して薬物防止に努めたいと思った。
- ・大学生になり、アルバイトで行動範囲が広がったり、1人暮らしで監視者がいなくなったことで、金銭的、行動範囲的にも自由になったため、身近な問題だと感じます。学生自身が身近な問題だという認識を持つことが大切だと感じます。
- ・諸外国の大麻合法化というのは全面的に解禁というイメージがあったのですが、内情は検挙数が多すぎて警察の取り締まりが困難なため、やむなく合法化したこと。そして若年層は禁止しており、大麻合法化による交通事故数の増加などは初めて知りました。今回のセミナーを受講し、薬物に対する知識を深められました。ありがとうございました。
- ・改めて、たった1度でも軽い気持ちで薬物に手を出してはいけないと感じました。また、誘いが断りにくいというような状況で断るといふ強い気持ちを持つことはもちろん、危なそうな場所には近寄らない、普段からクリーンな人間関係づくりに努める等、自衛することが大事だと感じました。
- ・改めて薬物の怖さを知った。特に20代の大麻の使用件数が増えていることを知り、今まで薬物とは無縁の人生を送ってきたけど、他人事ではないことがわかった。海外で大麻が合法化され、留学や海外旅行をする際、

日本の感覚で過ごしていると思った以上に危険であると痛感した。気づかぬうちに運び屋になっていないように、自分の荷物はしっかり管理し、友達や家族でない限り「手伝って」と頼まれても他人の荷物は持たないようにしようと思った。

- かつて校舎は違って、同じ大学の中で薬物に関する事件があったとは知らなかったので驚きました。自分だけでなく周りの人も薬物に近寄らない・使わない・運び屋にならないなど、学生団体内でも注意喚起をしっかりとすべきだと思いました。

プログラムの様子



令和3年の薬物乱用の状況

- 薬物事犯の検挙人員は前年より減少
- 大麻事犯は8年連続で増加し、過去最多
- 覚醒剤と大麻の押収量は、前年より増加!
- 30歳未満の検挙人員について
 - 覚醒剤事犯は前年より増加
 - 大麻事犯は8年連続で増加して、過去最多を更新

危険ドラッグ事犯の検挙人員は前年より増加

薬物依存症

☞ 国際的に認められている精神障害のひとつ

覚せい剤・シンナー・大麻などの依存性のある薬物を使いつづけているうちに心身に異変が生じ、薬物を使いたいという気持ち（渴望）が強くなりすぎて、自分ではコントロールできなくなり、現実に行き詰ると不都合が生じているにもかかわらず薬物を使いつづけてしまう障害。

市販の鎮痛薬や咳止め薬、病院で処方される睡眠薬や精神安定薬なども、使い方を誤ると依存症になる可能性。

薬物乱用の低年齢化

日本では、青少年の薬物乱用の生涯経験率が欧米各国と比べて圧倒的に低い!

なぜ?

歴史的な経緯、文化、地理的環境

↓

地理的環境によるメリットはもはやない

情報化社会、世界レベルでの流通、交通網の整備

心と体に働きかけるアロマセラピー

日時 2022年11月22日(火) 13:40~15:20

場所 多摩キャンパス EGG DOME 5階ホール

概要

- 参加者数：15名
- 講師：佐々木薫氏（株式会社 生活の木 Herbal Life College 主任講師
AEAJ 認定アロマセラピープロフェッショナル）
- 実施目的：
 - 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
 - アロマの効用について学び、ストレスケアに役立てる

4. 内容：

2022年11月22日(火)に課外教養プログラム「心と体に働きかけるアロマセラピー」を多摩キャンパス EGG DOME の5階ホールにて開催いたしました。新型コロナウイルスの影響で家から出ることが躊躇われ、気軽に外出できないことが原因でコロナ疲れという言葉が生まれているなかで、香りを楽しむ物の需要が高まっていると思われます。なかでも心身のトラブルを穏やかに回復し、健康や美容にも役立てられていて、医療分野においてもその効用が認められている、アロマセラピーについて学ぶ重要性を感じました。そこで、アロマセラピーの香り成分である「精油（エッセンシャルオイル）」の効用や種類についての知識を身に着ける機会を提供するために本プログラムを開催致しました。

講師には株式会社『生活の木』のカルチャー事業部のゼネラルマネージャーを勤めており、AEAJ 認定のアロマセラピープロフェッショナルの佐々木薫氏をお招きしました。プログラムではまず初めにグループワークを行い、学生間で種類や効用が伏せられた数種類の精油の香りを体験し、自分が好ましく思った香りや効用の予想などについて思うことをありのままに共有しました。その後の講義では「精油の基礎知識」や「体験した精油の効用の違い」、「医療における精油」についてお話しいただきました。香りの種類の多さやどのように作られるか等、多くの発見がありました。なかでも、医療における精油では、医師が処方する薬とは違い、自分の好みで選ぶからこそ効果がある、というお言葉には感銘を受けました。総じてアロマをより身近に感じられるよい機会になりました。

学生には本プログラムを通じて、アロマについて正しい知識を身に付け、ストレスの軽減など日常生活の一部として取り入れるきっかけとなれば幸いです。

【報告・KYOPRO スタッフ】金子慶太郎 社会学部社会学科 3年



プログラムの様子



書道入門教室～あしたから字を書くのがちょっとだけ 楽しくなる！～

日時 2022年11月25日(金)
17:00～19:00
(当初予定より30分延長)

場所 市ヶ谷キャンパス外濠校舎5階
523～526 短期会議室

概要

- 参加者数：12名
- 講師：鎌田 静眉 氏（書道春秋社 師範、教範、成家取得。
学生センター市ヶ谷学生生活課 課員）

3. 実施目的：

- 書道の世界の奥深さを体験する。
- チームでお題を完成させる「リレー書道」などを通じて、コロナ禍で減少している学生同士の交流の機会を創出する。
- 線や点、ひとつの作品に集中することで、心身ともにリフレッシュする。

4. 内 容：

2022年11月25日(金)に、課外教養プログラム「書道入門教室～あしたから字を書くのがちょっとだけ楽しくなる！～」を、市ヶ谷キャンパス5階の523～526 短期会議室で開催しました。

書体の種類（楷書、行書、隸書など）、バランスの取り方（点、線、偏（へん）、旁（つくり）、左右非対称）などを学び、字を書くことの楽しさを感じてもらうことを目指しました。講師は、書道春秋社で師範、教範、成家の資格を取得し、市ヶ谷学生生活課の課員でもある、鎌田静眉氏が務めました。

当日は、精神を統一しながら墨をすり、筆の持ち方や、とめ・はね・はらい等の基礎を学びました。また、楷書の中でも最も格式高いと言われる「九成宮醜泉銘」（632年、欧陽詢（おうようじゅん））を見ながら、美しい字の形や、線のバランスの取り方を解説しました。じっくりと作品を観察する参加者の姿が印象的でした。

後半では、チームでお題を完成させる「リレー書道」（「水」と「成」をお題としました）を通じて、学生同士の交流を図りながら、字のバランスを取る難しさ・おもしろさを体験しました。各チームの完成作品を見せ合ったり、一度目の反省点を活かし、再度同じ課題にチャレンジしたり、にぎやかな時間となりました。

最後に、好きな漢字を色紙に書く作品作りを体験しました。添削を通じて、線の太さ・細さ、筆遣い、線の角度などを意識して、集中して取り組みました。

プログラム終了後には、「気持ちをリフレッシュできた。また機会があれば参加してみたい」、「書道に興味があっても、家でやるには物理的な面でも心理的な面でもハードルがあったが、今回学内でこのような機会が頂けて、心のデトックスになったとともに、書道にさらに興味が湧いた。特に、字に対する感じ方は年齢によって違ってくるという話が興味深かった」といった声が寄せられました。

さらに、グローバル教育センターの協力をいただき、複数の留学生の方にも参加いただきました、日本文化に触れてもらう機会となり、充実した時間となりました。

今後も、学生同士の交流のきっかけになるような、体験型プログラムを実施していきます。

【報告】鎌田 愛子 学生センター市ヶ谷学生生活課

学生センター・課外教養プログラム（法政大学後援会補助事業）

申し込み：各学生生活課
市ヶ谷学生生活課
市ヶ谷キャンパス 5階 523～526
TEL: 03-5264-9478

書道入門教室

～あしたから字を書くのがちょっとだけ楽しくなる！～
11月25日(金)17:00～18:30

場所 外濠校舎5階
523～526会議室

講師 鎌田 静眉氏
(書道春秋社 師範、教範、成家取得)
(神奈川美術実業書道連盟 会員)
(学生センター市ヶ谷学生生活課 課員)

定員 12名

申込 QRコードからお申し込みください。
※ログインの際に使用するメールアドレスはご自身の法政大学のメールアドレス
(～@stu.hosei.ac.jp)としてください。

5歳から書道を始め、中学・高校の部活動や受験、就職活動、仕事と両立しながら、現在も書道を続けている。最近では、毎月の書道春秋社の題書提出や、年に2回ほど展覧会への出品を行っている。

内容紹介
筆の持ち方や線・点の書き方、バランスの取り方などの基本を学び、書道の名品（九成宮醜泉銘）を見て、美しい形を味わいます。
数人のチームでお題を完成させるワークや、色紙への作品づくりを通じて、難しさの中に面白さが詰まった書道の世界をのぞいてみましょう！

こんな方におススメ!
・新しいことをしてみたい!
・作品を作り上げてみたい!
・新しい友だちを作りみたい!

プログラムの様子



KUG で学ぶ避難所運営 ～あなたの知らない避難所の世界～

日時 2022年12月5日(月) 16:50～18:30

場所 市ヶ谷キャンパス外濠校舎5階 523～526 短期会議室

概要

- 参加者数：8名
- 講師：古越武彦 氏
(特定非営利活動法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク事業部事業担当)
- 実施目的：
 - 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
 - 大学生の防災に対する意識の向上。学ぶ事が出来ない避難所や帰宅困難者支援施設どのように運営するのかという点について学ぶ

4. 内容：

12月5日、法政大学課外教養プログラム「KUG で学ぶ避難所運営～あなたの知らない避難所運営～」を実施致しました。本企画は、地震大国である日本において、大学生の防災に対する意識を向上させるだけでなく、なかなか学ぶ事が出来ない避難所や帰宅困難者支援施設をどのように運営するのかという点について学ぶことを目的としています。法政大学は「地域住民及び帰宅困難者等の被災者への一時的施設の提供」といった条項を含む「大規模災害時における協力体制に関する協定」を千代田区と締結しています。その事から、今回は帰宅困難者支援施設の運営方法について机上で学ぶ事が出来る「帰宅困難者支援施設運営ゲーム（KUG）」を行いました。

講師には特定非営利活動法人 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）から古越武彦様をお招きしました。また、今回は本学ボランティアセンターで防災啓発に関連するプログラムを法大生向けに企画しているチーム・オレンジと共同で企画を実施しました。チーム・オレンジは毎年、法大生向けに東北被災地ボランティアツアーや防災キャンプ等を実施している実績があり、今回、共同でプログラムを考える事で、チーム・オレンジならではのノウハウや知識を踏まえる事で、より深い学びを学生に提供できると考え、共同でプログラムを実施しました。

本企画はすべての内容を対面で行いました。プログラムは、KUG の概要をチーム・オレンジ学生スタッフの石田さんが説明してから、1回目のKUGを行い、その後、古越様からゲームに対する解説を行って頂いた後にさらに、KUGを行い、最後に古越様よりフィードバックを頂くという構成で行いました。1回目のKUGでは、スタッフが司会となりゲームを進行しました。その中で、避難者の情報を読み上げるだけでなく、避難者が抱えている問題（怪我をしているや障がいを抱えている等）を説明し、参加者にどのように対処するか問いかける事で参加者に考えることを促すという工夫を行いました。また、参加者の間でも「避難者の属性によって一時待機場所を変える」という「受入方針」をあらかじめ作るという工夫が見られました。1回目のゲームに対する解説では、「喫煙所や仮設トイレを設置する際はルールが必要であること」や「避難所のスタッフのみならず、避難者の方々にも時には助けを求めることが必要だ」という事を教えて頂きました。その中でも、避難所はすべての人が助け合う場所であるというお話が印象に残りました。解説を踏まえた2回目のKUGでは、日本語が話せない避難者に対し、「避難している他の人で英語が出来る人を探す」という解決策が出るなど、参加者は1



回目の解説を踏まえた解決方法を提案できていました。その後のフィードバックでは、「避難所では様々な方が存在し、どのような人を最優先で保護するか」といった様なお話を頂きました。また、フィードバックの後には講師の方に質問する時間を設けました。多くの人が講師の方に質問を行っており、非常に活発な議論がなされていました。法政大学が帰宅困難者支援施設になった際には、学生もボランティアとして動かなくてはならないかもしれません。参加者からも、「避難所では何が重要で、何が必要か学ぶことが出来た」「帰宅困難者支援運営に関する知識を知ることが出来た」という声があり、充実した企画となりました。

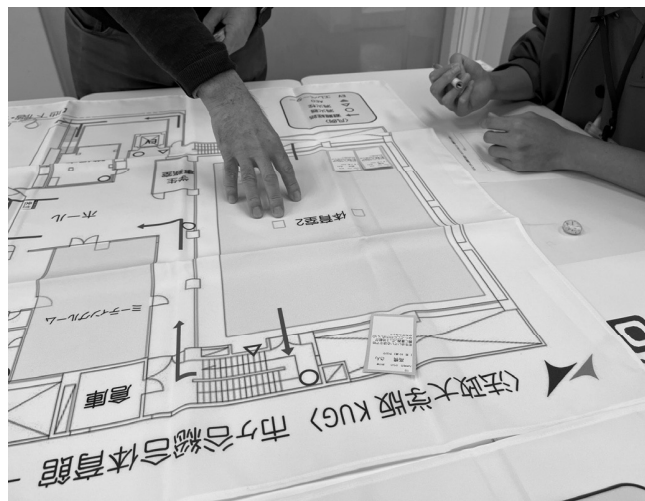
【報告・KYOPRO スタッフ】藤井航一（法学部・国際政治学科 3年）

【チーム・オレンジ学生スタッフによる感想】

今回の企画はKYOPROさんとチーム・オレンジの合同企画ということで、企画力に長けているKYOPROさんと防災啓発活動を行うチーム・オレンジ、お互いの特徴を活かした企画となったのではないかと思います。本企画で使用したKUGは、私たちの通う法政大学が舞台となっています。そのため、震災が起こった時に自分たちが学生ボランティアとなった場合の具体的な想像がしやすいものだったのではないかと感じます。又、今回お越しくださった古越様からは避難所生活の実態や、そこで考えられうる様々なシチュエーションとそれに対しどう対応すべきか、などを様々な観点からお聞きできたことは、チーム・オレンジとしては大変貴重なお時間だったと感じます。

【報告・チーム・オレンジ学生スタッフ】石田里菜（法学部・法律学科 3年）

プログラムの様子



生態系を脅かすインフラ開発！？ ～私たちの暮らしの裏で何が起きているのか～

日時 2022年12月7日(水) 13:40～15:20

場所 ・多摩キャンパス 総合棟4階 多目的教室
・オンデマンド配信

概要

1. 参加者数：47名(対面9名、オンデマンド38名)
2. 講師：高田雅之 氏(法政大学人間環境学部 教授)
3. 実施目的：
 - 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
 - 人間と自然の共生について学ぶ

4. 内容：

2022年12月7日(水)に、「生態系を脅かすインフラ開発！？～私たちの暮らしの裏で何が起きているのか～」を開催いたしました。また、今回の講義内容をまとめた動画をオンデマンド形式で配信をいたします。

インフラ開発は私たちの生活を豊かにする有益なものであります。しかし、自然を切り開いて行われるためインフラ開発による生態系への影響は考えるべき問題です。そこで、過去の事例を見ながらインフラ開発のこれからについて考えるプログラムを開催いたしました。

当日は法政大学人間環境学部の高田雅之様をお招きし、日本の大規模なインフラ開発の事例や、自然に配慮した開発の事例についてご説明いただきました。プログラムの都合上、限られた時間ではありましたが、その中でも学ぶことが多く、非常に内容の濃い講義でした。その後グループワークを通してこれからのインフラ開発には何が必要かについて話し合い、考えを共有することができました。

これからの時代を生きる我々にとって、生活の豊かさの追求も自然との共生も向き合っていかなければいけない問題であります。本プログラムを通してこれらの問題について深く考えるきっかけとなれば幸いです。

【報告・KYOPRO スタッフ】 福田尊 社会学部社会学科 1年



プログラムの様子



ゼロから学ぶ LGBTQ ～より良い社会を私たちがつくるために～

日時 2022年12月8日(木) 17:00～19:00

場所 市ヶ谷キャンパス 外濠校舎5階 523～526 短期会議室

概要

1. 参加者数：10名

2. 講師：宮島謙介氏（特定非営利活動法人 SHIP カウンセラー・臨床心理士）

3. 実施目的：

- 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
- LGBTQ の歴史や文化、そして現代の当事者への取り組みについて学び、LGBTQ に関する正しい知識をインプットする。多様性に対する理解を深める。

4. 内容：

12月8日、法政大学課外教養プログラム「ゼロから学ぶ LGBTQ ～より良い社会を私たちがつくるために～」を実施いたしました。本企画は、参加した学生がLGBTQ の歴史や文化、そして現代の当事者への取り組みについて学び、LGBTQ に関する正しい知識をインプットする事、多様性に対する理解を深める事を目的として実施致しました。また、この企画は本学ボランティアセンターで様々なボランティアプログラムを法大生向けに企画しているVSP（ボランティア支援プロジェクト）学生スタッフと共同で企画を実施しました。VSPは法大生向けに様々なボランティア企画を実施しており、「障がい」や「生理」といった多様性に関する企画も多く実施している実績がある事から、VSPならではのノウハウや知識を踏まえて共同でプログラムを考案する事で、より深い学びを学生に提供できると考え、プログラムを実施しました。

講師は、臨床心理士であり特定非営利活動法人 SHIP でカウンセラーも務められている宮島謙介氏をお招きしました。同団体は、セクシュアルマイノリティの人々が自分らしく心身共に健康に暮らせる社会、多様性が尊重される社会の実現を目指して、神奈川県内を中心にセクシュアルマイノリティの方の居場所づくり事業や支援事業を行っています。本企画は対面形式で実施しました。アイスブレイクの後、宮島氏から講義をしていただき、それを踏まえてグループディスカッションを行うという構成で実施しました。初対面同士の参加者の緊張を解きほぐすためのアイスブレイクでは、お互いに呼んでもらいたいニックネームを紹介し、自分が今持っているLGBTQ に対してのイメージを話し合ってもらいました。そして、講義では、LGBTQ の歴史、当事者の方々が作り上げてきた文化といった基礎知識について教えて頂きました。

その後は日本と海外におけるLGBTQ の価値観や文化の違い、宮島氏のご経験についてお話ししていただきました。学術的な話題だけではなく、宮島氏のご経験や小話も伺うことができたので、とても興味深く、有意義な時間を過ごす事ができました。

学生センター・課外教養プログラム
法政大学ボランティアセンター学生スタッフVSP
法政大学後援会補助事業

【概要】
生活の中で暮らすようになった「LGBTQ」という言葉ですが、その意味や言葉などを皆さんは理解できますか？セクシュアリティへの誤った知識、偏見に悩まされている方もいらっしゃるかもしれません。自分にとって普通だと思っていたことは、相手にとっても普通であるとは限りません。多様性がある世界を築いていくためには、セクシュアリティに関する歴史や現代の取り組みについての学びを通して、改めて誰もが安心して暮らす社会について考えてみませんか？

ゼロから学ぶ LGBTQ
～より良い社会を私たちが作るために～

【日時】
12月8日(木)
17:00～19:00

【場所】
法政大学外濠校舎
5階短期会議室
523～526

【対象】
本学学部生
定員：25名
参加費：無料

講師 宮島謙介氏
SHIPカウンセラー、臨床心理士
横浜国立大学大学院「教育修士」後、地域のスクールカウンセラーとして働くかたわらの厚生労働省「HIVと社会疫学研究班」研究員に準ずる。2008年にニューヨーク大学大学院「Master of Arts」この留学期間中に徹底でコミュニケーションを立ち上げたSHIPとの関わりが生まれ、以後SHIPのカウンセラーとしてSHIPの相談室に携わる。

【お申込みはこちらから】
※ログインの際に使用するメールアドレスはご自身の法政大学のメールアドレス（@shu.ac.jp）をご利用ください。
お申込み：各学生生活課
お問い合わせ：市ヶ谷学生生活課
TEL 03-3264-9475

グループディスカッションでは、宮島氏の講義を踏まえ、「LGBTQ に対する日本の現状を踏まえて、当事者がより生きやすい社会とは」、「そのために自分や周囲、国や地方自治体ができること」の2点について話し合い、全体で話し合いの内容を共有しました。どのグループも発言や議論が絶えることなく、時間ギリギリまで話し合いを行っていました。各グループの議論では「LGBTQ についての内容を教育に取り入れるべき」という意見が共通して挙がり、宮島氏もその重要性を感じておられました。

本企画を通して学生たちが多様な性について理解し、一人ひとりが自分らしさを大切にしつつ、社会に出た後もお互いを自然に受け入れられるような環境を作っていくことを期待しています。

【報告・KYOPRO スタッフ】津嶋千早 法学部政治学科 2年

【VSP 学生スタッフによる感想】

近年、さまざまな場所で聞かれるようになった「多様性」という言葉の中の一つとしての「LGBTQ」についての学びを深められる企画ということで今回は共同で企画を考えさせて頂きました。平等な社会を目指すうえで歩み寄りが不可欠な内容ながら、センシティブな問題として扱われることが多く、知識を得る場があまりに少ない「LGBTQ」の歴史や文化、現状について、体験談も含めたお話を聞ける貴重な機会で、とても良い経験になりました。多様性が浸透しつつあるこの社会で生活していくうえで、得られた知識、経験を活かせたらと思います。

【報告・VSP 学生スタッフ】浅香光希 経営学部市場経営学科 2年

プログラムの様子



君にはまだ無駄遣いがあるかもしれない！ ～ファイナンシャルリテラシーを学ぼう～

日時 2022年12月22日(木) 17:00～18:50

場所 小金井キャンパス東館1階E111教室

概要

1. 参加者数：7名
2. 講師：山中 康司氏
(一般社団法人 金融リテラシー協会 代表理事)

3. 実施目的：

- 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
- 金融リテラシーを高めて、学生生活および社会に出てから自分で判断できる知識を身に付ける。

4. 内 容：

ファイナンシャルリテラシー（金融リテラシー）とは、金融や経済に関する知識や判断力の事を言い、このリテラシー不足が学生に及ぼす不利益としては、 unnecessary商品の購入や将来払う保険料の過剰払い、さらに大学生を狙った詐欺に引っ掛かる可能性が考えられます。

本プログラムでは、このリテラシー不足による無駄遣いの傾向を学び、グループワークも交えて、社会に出る時の準備として学生自身が知識として取り入れ、判断できる力を身に付けることを目的に企画立案しました。

講師として、主に金融・投資について専門とし、一般社団法人金融リテラシー協会 代表理事、金融コンサルティング会社アセンダント 取締役など兼任されている、山中康司様をお招きしご講演いただきました。

本プログラムでは、アイスブレイクも兼ねたグループワークを最初に行いました。内容は「今までの中で無駄遣いしたエピソード」について、参加者とスタッフに挙げてもらいました。皆さん大なり小なりお金を無駄遣いした経験をととても楽しそうに会話しながら、共有していました。

続いての講義では、学生にとって最低限必要な家計管理、生活設計、金融経済の理解・金融商品の選択、外部知見の活用の4つについてお話しいただきました。クイズも交えて、金融や投資について分かりやすくご説明して下さったため、金融・投資の知識だけではなく、詐欺等に騙されない判断力を身に付ける大切さもよく理解することができました。

本プログラムを通じて、社会に出るために必要な金融・投資の知識、考え方を学ぶことができました。参加者の皆様にとって、これからも数多く関わることになるお金についての理解を深め、考えるきっかけとなれば幸いです。

君にはまだ無駄遣いがあるかもしれない！
～ファイナンシャルリテラシーを学ぼう～

REAL? FAKE? お金の知識 獲得!!

12月22日(木)
17:00～18:50

場所 東館1階 E111教室
定員 20名
対象 本学学部生
講師 山中康司氏

申込みは学生生活課またはQRコードから
※ログインの際に使用するメールアドレスは
に自身の品名大学のメールアドレス
...@stu.hosei.ac.jpをご入力ください。

「使うつもりじゃなかったのに、」
「無駄遣いしちゃった、」
誰もが一度は経験があるでしょう...
そこで！ぜひファイナンシャル・リテラシー(お金の知識を活用して自分で判断すること)を学び、お金の使い方を直視し、知識や判断力を身に付けてみませんか！
(一社)金融リテラシー協会代表理事

プログラムの様子



星空観察—多摩キャンパスの冬の星空—

日時 2023年2月24日（金）18:30～20:00

場所 多摩キャンパス 総合棟4階 多目的教室

概要

- 参加者数：25名
- 講師：水野孝雄 氏（天文観望会支援団体 宇宙魅せ隊）
- 実施目的：
 - 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
 - 宇宙についてや望遠鏡の使い方について学ぶ



4. 内容：

2月24日（金）、多摩キャンパスにて「星空観察—多摩キャンパスの冬の星空—」が開催されました。講師には学校での天文観望支援を中心として活動されている宇宙魅せ隊の皆様をお呼びしました。過去には高校や小学校で天体観望を行われています。

当プログラムでは、宇宙や星に関する講義を交えながら、当日の星の解説をしていただき、参加者全員で星を観察する予定でした。しかし企画当日は、残念ながら雨天となり、室内での講演と模擬観望を行いました。

まず高島先生の講義では、コントローラーを操作することで、宇宙を立体的に動かして見ることができる「Mitaka」を体験しました。現在調査されている範囲での宇宙の全容、更には実際には見ることのできない宇宙の外側までも見ることができました。宇宙の外側から太陽系の地球に戻ってくる様子は、現実には絶対に見ることができない景色で、とても感動しました。

模擬観望では月やアンドロメダ銀河、ハート星雲などの写真を実際に観測する際に使われる望遠鏡で見て、楽しみました。本物の望遠鏡で観望でき、「模擬」ではないと思うほどリアルな体験で、とても面白かったです。今後、星を観望する機会があれば、今回の経験を活かしたいです。

そして水野先生の講義では、まず天文学の歴史をたどり、宇宙の取り巻く環境がどう解明されたのかを学びました。次に私たちがどのようにして生まれたのか、生命が誕生するために必要な条件について、物質やエネルギー（光）の観点から詳細に教えていただきました。

基本的に、全学部の学生が分かるような講義内容でしたが、専門的な内容も多く詰め込まれており、理系の学生にとっては特に勉強になる内容でした。模擬観望後の講義であったことから、先ほどまで見ていた星や銀河系を思い浮かべながら講義を拝聴でき、短い講義時間ながら充実した講義内容でした。

プログラムを通して、残念ながら雨天でのプログラム実施となってはしまいましたが、望遠鏡の使い方や宇宙への知識が深まる良い機会となりました。アンケートからも、「望遠鏡を実際に使えて楽しかった」「宇宙への興味が湧いた」とのご感想をいただいています。

参加学生のみなさんには、当プログラムをきっかけに星や天文、自然科学に興味を持っていただき、実際に天体観測へ足を運んでみていただけたら嬉しいです。

【報告・KYOPRO スタッフ】

澤藤来美	経済学部現代ビジネス学科	4年
佐藤真理子	生命科学部応用植物科学科	3年
ハムジュンソ	社会学部社会学科	2年
菊池翔大	理工学部電気電子工学科	2年

プログラムの様子



日常で使える脳科学 ～人生を成功に導く脳の鍛え方～

日時 2023年3月6日(月) 15:00～16:40

場所 Zoomによるオンライン上

概要

- 参加者数：28名
- 講師：澤口俊之 氏（武蔵野学院大学教授）
- 実施目的：
 - 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
 - 日常でも使える脳科学を学び、ストレス社会等に対応する

4. 内 容：

2023年3月6日(月)に課外教養プログラム「日常で使える脳科学～人生を成功に導く脳の鍛え方～」を実施いたしました。本プログラムでは、日常に役立つ身近なテーマから脳科学に触れながら今後の人生を成功に導くコツをこの機会に学び、今後の生活に応用して自分との向き合い方、人との接し方について考える際の助けとなればと思い、企画しました。

講師として、現在武蔵野大学教授を務めていらっしゃる澤口俊之先生をお呼びしました。先生は人間性脳科学研究所・所長であり、脳科学研究の第一人者と言え、またTV番組にもご出演されている為、知名度が高い方です。

プログラムではまず初めに、グループワークとして『人類はどうして世界中に住んでいるのか?』というテーマについてブレイクアウトルームに分かれて話し合いを行いました。難しいテーマにもかかわらず、学生が積極的に意見を出してくれていたため、良い交流ができたと思います。講義では、グループワークにて扱ったテーマについての回答を脳科学の視点より解説いただきました。他にも、Human Quotient (HQ) つまり「人間性知能」が高いほど、人生に成功できるというお話からHQ向上法、ストレスを軽減する方法、幸福感を得るために好奇心を持つことが重要というお話等、日常に活かしやすい知識ばかりを得ることができて、今後の生活に活かしていくことが楽しみになりました。

興味深い講義だったこと、多くの学生が興味を惹くテーマであったこともあり、オンラインでも質問が多く飛び交うほど活発なプログラムとなりました。参加学生が本プログラムをきっかけとし、壁にぶつかった時には今回学んだ脳科学の知識を活かし、今後の人生を有意義なものとしていただけましたら幸いです。

【報告・KYOPRO スタッフ】澤藤来美 経済学部現代ビジネス学科 4年



プログラムの様子

